

令和5年度（2023）
高山植物等保護パトロール活動
～パトロール員からの報告～



国有林野保護管理協議会
富山森林管理署

高山植物等保護パトロールについて

(1) 組織の概要

北アルプスの国有林において、希少な高山植物等の保護や山岳環境の美化を目的としたパトロールを継続して行っています。このパトロールは、昭和47年から毎年夏山繁忙期に行っており、富山森林管理署、地元自治体、山小屋関係者、運輸事業者等で構成する「国有林野保護管理協議会」がパトロール員を公募し、「立山」、「薬師岳・雲ノ平」、「黒部」、「白馬・朝日・北又」の4地区において実施してきました。

本年度は、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことにより、4年ぶりに立山地区、薬師岳・雲ノ平地区、黒部地区及び白馬・朝日・北又地区の全地区で活動しました。

なお、「薬師岳・雲ノ平」、「黒部」及び「白馬・朝日・北又」の稜線3地区については、パトロール期間を30日間から20日間に短縮しました。

(2) 活動期間

立山地区（7名）	令和5年7月19日 ～ 令和5年8月17日
薬師岳・雲ノ平地区（2名）	令和5年8月 3日 ～ 令和5年8月22日
黒部地区（2名）	
白馬・朝日・北又地区（2名）	

(3) 主な活動内容

- ・違反行為者への注意指導（登山道外への踏み込み、指定地外キャンプ、植物採取等）
- ・利用者への高山植物等保護を呼びかける啓発活動（ストックキャップの着用等）
- ・高山植物等保護のための立入禁止柵（グリーンロープ）の整備
- ・植生被害の拡大防止（置き石による脇道の封鎖等）
- ・看板、道標等の補修
- ・ゴミの回収を中心とした山岳美化活動
- ・植生保護、登山者安全確保のための雪渓切り
- ・ライチョウの生息状況の記録
- ・登山道、看板等の状況確認（令和3年度より実施）

活動風景



高山植物等に関する講習



危険箇所の標示



美化活動



利用者への普及啓発活動



看板の補修



雪溪切り



ライチョウの生息状況の記録



グリーンロープの設置



看板の設置

巡視結果報告

【立山地区】

活動期間：令和5年7月19日 ～ 令和5年8月17日

区域
室堂ターミナル周辺 ～ 浄土山 ～ 一ノ越 ～ 雷鳥沢



活動初日



美化活動

口頭注意件数

行為別	高山植物 採取	ロープ内 立入り	指定地外 キャンプ	ストックキャ ップ未装着	排泄の ゴミ	その他	計
件数	3	208	0	109	4	80	404
人数	4	314	0	143	4	211	676

※その他：投石、ドローンの無届飛行、グリーンロープの掴み歩き、熊鈴等

令和4年度 件数	4	136	0	164	2	41	347
-------------	---	-----	---	-----	---	----	-----

ライチョウ目撃数（羽）

	オス	メス	ヒナ	計
令和5年度	18	77	198	293
令和4年度	5	75	243	323

パトロール員からのコメント

● 巡視上感じたこと

- グリーンロープ内の立入りは写真撮影に夢中でつい…ということが多いので難しいと思うが、ターミナルに降り立つ前にバスなどの乗り物の中で散策するにあたってのアナウンス（モニターで視覚化）をしたら、もう少し意識をしてもらえるのでは？と感じた（特にストックキャップについて）。
- スtockキャップ未装着のすべてに注意することは難しい。石畳、紛失等の理由で未装着の方が多い。
- 看板は、どの国の人や子どもでもわかりやすく、イラストがあると良い。
- 木製看板だけでなく、グリーンロープに取り付ける簡便な物でも良い。
- 外国語での事前の注意喚起の必要性を強く感じた。インバウンドの旅行者も増え、外国人旅行者による植生への踏込や採集への注意件数が多かった。
- ライチョウは絶滅危惧種であり、昆虫、高山植物の芽、種子などを食べるので、高山植物が増えればライチョウの保護に繋がると感じた。人が出すゴミに近寄るカラスはライチョウに近寄らせてはならないと感じた。
- 去年はコロナ禍ゆえのマスクゴミが目立ったが、今年は観光客の増加に伴い、ベンチに置かれたままのタオルやハンカチ、手袋といった忘れ物系の回収物が目立った。
- 故意に捨てられたのではないようなゴミ（飴や行動食の包装等が風に飛ばされた？）だが、毎日一定量回収するのでかなりの問題だと思った。
- 資材系のゴミの放置状況。特に天狗平方面途中の大谷の上下流部と室堂山荘から雷鳥沢キャンプ場へ向かう途中の浄土沢源流部付近が気になった。
- トングを使って一番多く拾ったゴミは飴の個別包装のビニール袋だった。これは人間の不注意という名の故意だと感じた。ザックのサイドポケットに入れずに、ザックの中にゴミ袋を入れればよいこと。ほぼ同じく多いゴミがクローラー車のゴム片だった。
- 写真撮影のための踏込、岩や木の柵に上るといった行為が目立った。
- 植生保護については、ロープ内立入り等が多く見受けられることから、高山植物がいかに過酷な環境で生きているかまだまだ伝わっていないため、まずは高山植物に興味を持ってもらう等、根気強い啓発活動が必要なのかなと感じた。
- グリーンロープを持って登る登山客が多く、危険だと感じる場面が多かった。
- 観光の方（インバウンド含む）が街着、スニーカーやサンダルでの足元で、気軽に雄山へ向かう方も多く、悪天候時でもおかまいなく向かわれていたように感じた。
- グリーンパトロールの認知度が低い！名札を見て、「何してるの？」とよく聞かれたので、もっと広めてください！！

● 改善を要と思ったこと

- 外来種の除去について、折角講演や講習をしていただけたので、1回だけではなく、何回かできたら良かったなと感じた。
- 赤いキャップは、耳がやけどして皮がむけて痛かったので、ハットにしてください！

● パトロールを終えての感想

- 立山センターに初めて来た頃にはまだつぼみだったタガチドリが綺麗な花を咲かせ、種をつけ、あっという間に1ヶ月が過ぎました。大好きな山と高山植物を見ながら、毎日外を歩けることを楽しみにしてきましたが、パトロールをする中で、登山者や観光客の人たちとの会話も楽しみのひとつになりました。ごみ拾いの様子を見て、「ありがとう」、「おつかれさま」と声を掛けて頂くことも多く、嬉しい気持ちになりました。一方でボランティアだと思っていたり(私自身もそうでしたが)、グリーンパトロールのことを知らない方も多く、もっと沢山のの人にグリーンパトロールについて知ってもらえたらいいな、と思うようになりました。また、立山センター内や周辺の施設で働く方々とお話させて頂く機会もあり、様々な情報を得る中で、色々な人々のおかげで山が守られていることも改めて感じました。

林野庁の方々、Kさん、Yさん、立山センターの方々に大変親切にして頂き、このメンバーで毎日楽しく過ごせたことにとても感謝しています。貴重な体験をさせて頂き、本当にありがとうございます。

- ・毎日のごはんがおいしかった
- ・玉殿の湧き水かけ流しのおフロが気持ち良かった
- ・夕焼けが毎日違って綺麗だった
- ・星空を見たり、スターリンクを見たり、富山の花火大会を見たり…盛り上がった
- ・みくりが池温泉、とても気持ち良く、カフェのスウィーツ&コーヒーはどれもおいしかった。
- ・沢山の差し入れありがとうございました。心がうるおいました。
- ・初めて出会うお花も多く、調べるのが楽しかった
- ・雪溪切り、外来植物除去楽しかった（もっとやりたい）。
- ・ライチョウたち、元気に大きくなってほしい！

- 「久しぶりです」、「はじめまして」から始まった、今回のパトロール業務。男性3名は昨年と同じメンバー。これに女性4名が加わり、計7名でスタートしました。1年ぶりに訪れた室堂でしたが、残雪の少なさに驚きました。今年は新型コロナによる規制も無くなり、外国からの観光客、登山者が一気に増加したような感じです。回収するゴミも、去年は使い捨てマスクが多かったのですが、今年はベンチに置かれたままの、タオルやハンカチ、パーカー、手袋といった忘れ物系の回収物が目立ちました。去年のパトロール終了後に報告した、天狗平方面の大谷の上下流に残された資材ゴミは相変わらず、そのままの状態でした。今回のパトロール中にも少しは回収しましたが、根本的な改善には至りません。今回、大谷と同じような状況が浄土沢の源流部でも見られました。登山道から外れた川の中という状況なので行政の区分も複雑化しているのは仕方ないことですが、長期間、野放しのままというのも残念な思いです。

今年のパトロールで気になった点が、室堂山荘から雷鳥沢キャンプ場に至る迂回ルートについてです。夏季のみの期間限定ルートですがパトロール期間中は通行する人も多く、植生再生、土壌流出防止ネットの劣化に伴う、降雨による道の崩れ、また植生帯との区分不明による登山道の広がりも気になります。

マナーについては、私が見る限りほとんどは守ってくれました。トングやゴミ袋を持っているだ

けで「お疲れ様」、「ありがとう」と声をかけられると、やはり嬉しい気分になります。熊鈴については1人で複数個ぶら下げ、遠くからでも音の目立つ人には、外して頂くよう声がけしました。ターミナルの出口付近に、自然保護センターが設置した「熊鈴のマナー」の看板がありますが、もっと見易く、多くの人に気づかせる掲示方法が必要ではないかと感じました。立山センターでの生活も、昨年同様、充実した時間を送れました。毎日、美味しい食事を提供してくれるKさんや食堂に従事される方には、感謝しかありません。恒例の卓球大会にも参加させてもらい、警備隊や救助隊の方と楽しませて頂きました。

パトロール業務は今回で、2年連続となりますが、可能であれば、来年もまた応募致したいと考えています。

- 高山植物をほとんど知らない状態でパトロール初日を迎えたが、活動期間で108種類の高山植物を観察することができた。育成環境による植生の違いや、ひと月の中での移り変わりを高山帯で間近に見ることができた貴重な機会であり、改めて日本の植生の豊かさを感じた。その一方で、足元の植生に気を留めずに踏み込んでしまう観光客が多く、グリーンパトロールの意義を感じた1ヶ月でもあった。その中でも「昔と比べたらすごく綺麗になった」と声をかけてくれる高齢の登山客や、グリーンパトロールの活動を知っていて、「おつかれさま」、「いつもありがとうございます」と声をかけてくれる登山客も多く、そういった声はパトロール活動の励みでもあった。10年ほど前にパトロールに参加したという方とも話をすることができ、登山道沿いの植生が回復しているということを実際に聞くことができ、地道な取り組みが確実に実を結んでいくということも感じられた。しかし、外来植物もターミナルを中心にかなり侵入してきており、観光客が少ない平日などを中心にパトロール内でも除去活動ができれば、高山植物の保護に有益ではないだろうか。

また、立山センターをはじめとして、山荘や火山監視センターなどで多様なバックグラウンドを持つ多くの人々が働き、標高2,400メートルという高地で、立山を守り、活性化するという目的の下緩やかなコミュニティを形成していることを知り、新たな視野を得ることができた。さらに、山岳警備隊が出動する姿を間近で見ると、やはり安全に登山をすることの重要性を強く感じると同時に、観光客が増えるにつれて、危うげな登山客が急増したことは富士山に限らず、立山でも今後大きな課題となると予想される。本来の仕事ではないが、軽装であつたり不慣れであると見受けられる登山客への声かけや挨拶を積極的に行う動機にもなり、貴重な体験ができたことをこれからに生かしたい。

公共交通機関で簡単に訪れることができるということは、国内外の人々に日本の高山の環境を経験してもらうまたとない機会であるとともに、登山マナーや国立公園ルールの周知、遵守も不可欠であり、グリーンパトロール員が果たす役割は決して少なくないと感じた。この先もグリーンパトロールの活動が長く続くことを期待する。

- 1ヶ月間、大変お世話になりました。富山森林管理署の皆さん、Kさんをはじめとした立山センターの皆さん、そして一緒に1ヶ月間パトロールを行ったパトロール員の方達のおかげで、1ヶ月間ケガなく無事にパトロールを終えることができたと思います。本当にありがとうございました。

採用していただき、パトロールが実際にはじまる前は、自分に務まるだろうか大変不安に思っ

いましたが、1ヶ月のパトロールを終えて、自然保護や人が手を入れ環境を維持していくことの大切さや大変さなど、学ぶこと、考えさせられることが多くあり、働かせていただけてよかったと感じています。

国立公園に限らず、たとえば住まいでも里山でも歴史的建造物でも、人が手をかけ続け維持していくことで、建物などのハードの面だけでなく、その地域の文化や歴史を時を越えて守っていくことにつながっています。国立公園という自然環境についても同じことが言え、我々パトロール員が実際にゴミを拾ったり、その様子で登山者の方々へゴミを持ち帰ることを啓発したりなど、環境を美化することに貢献することで、自然環境を綺麗にするだけでなく、長い目で見れば「立山室堂」という歴史や文化を守っていくことの継承につながっているんだなということを身をもって体感することができました。

また、高山植物につきましては、周りの詳しい方に聞いたり、図鑑で調べたり等で、100種以上の植物を見つけることができました。より多くの高山植物を知ること、登山者の方々とのコミュニケーションが増えたりするなど高山植物を広めることにつながったのではないかと思います。

最後になりますが、改めまして1ヶ月間大変お世話になりました。50年の歴史をもつこの高山植物等保護パトロールに携わることができました。本当にありがとうございました。

- 山が好き！自然を守る仕事がしてみたい！という気持ちで応募したが、本当に採用していただいて、ありがとうございました！！想像以上の素晴らしい体験とぜいたくな山時間を過ごすことができました。ここでの体験を生かし、人生の次へのステップアップをはかっていきたいです。

センターでの団体生活も今の時代にこれだけの多くの人と生活する時間はとても貴重なものでした。慣れない生活で健康管理を支えてくれた立山の母のKさんには、なかなかお話しする機会も少なかったから、お礼をきちんと伝えられなかったけど、本当に本当に、おいしい食事をありがとうございました！！

ご縁があって集まった7人の仲間。自分の足りない所を支えてもらい、助け合い、たくさん語り合い一緒に夕日をみたり、星をみたり、休日で山を過ごしたり…思い出いっぱい、本当にありがとうございました！！

私たちを支えてくれた、立山森林官をはじめ、Hさん、Oさん、Nさん、Kさん、Yさん、本当にありがとうございます！！

約1ヶ月間、グリーンパトロールとして働けたことは誇りです。立山の自然、出会えた仲間、関わりを持てた方々には感謝しかありません。このすばらしいグリーンパトロールの制度をなくさないでほしいです。歴史をつなげていってほしいです。

何回かきたことがあった室堂でしたが、グリーンパトロールだけでなくここに関わるたくさんの人のおかげで、室堂の美しさと自然が守られているということがよくわかりました。地元に戻っても、遠く離れていても“自然を守る”という気持ちを忘れずに生きていきます！！

- 昨年にくらべ悪天待機が極端に少なく身体的には大変だったが、事故もなく終わられてホッとしている。何をすべきか？手探りだった昨年にくらべれば、グリーンロープ設置など各作業をスムーズにおこなうことが出来たのでは？と考えています。

- グリーンパトロールの30日を通しての仕事の内容を思い起こしてみました。前年は何をしてよいのかわからず、あれやこれやと言われたことをやりました。今年は何をどの順番ですればよいのかわかっていたのであっさり実行できました。グリーンロープの杭打ち、雪溪切り、注意標識、道標の立て直しといったハード面の仕事が終われば、ゴミ拾い、登山客から花や山の名前、探索ルートを聞かれた場合に答えたりしました。

2回目が終わりましたが、今年もノビノビと働かせていただきました。富山森林管理署、立山センターで共同生活をしてくださった警察、消防、診療所、Kさんなど、卓球を毎日してくださる方々に大変感謝しております。来年はどうなるかまだわかりませんが、またよろしくお願いします。

【薬師岳・雲ノ平地区】

活動期間：令和5年8月3日 ～ 令和5年8月22日

区域
太郎平 ～ 雲ノ平 ～ 三俣蓮華岳 ～ 薬師岳 ～ 五色ヶ原



危険箇所の標示



立入禁止看板の補修

口頭注意件数

行為別	高山植物 採取	ロープ内 立入り	指定地外 キャンプ	ストックキャ ップ未装着	排泄の ゴミ	その他	計
件数	0	2	1	66	40	3	112
人数	0	2	痕跡のみ	91	47	6	146

※その他：沢登り後の登山道外への踏み込み

令和3年度 件数	0	5	1	42	29	4	81
-------------	---	---	---	----	----	---	----

ライチョウ目撃数（羽）

	オス	メス	ヒナ	計
令和5年度	3	8	22	33
令和3年度	3	7	7	17

※令和4年度：パトロール中止

※令和3年度：1ヶ月間活動

パトロール員からのコメント

● 巡視上感じたこと

- もう少し日程の余裕が欲しい。例年より短い日程だったためか、ロープ張りの整備等の時間を要する活動に十分に時間を確保できない場面があった。
- 湯俣～三俣山荘を結ぶ伊藤新道が開通されるに伴って、このルートも巡視する必要が出てきそう。
- 登山者のマナー自体は悪いと感じることは少なかった。悪質な登山者は皆無に等しかった。
- スtockキャップ未装着の登山者は多数見受けられたが、頑なに装着を拒むようなマナーがなっていない方というよりも、装着しないことによる環境への負荷をしっかりと認識していないだけのほうがほとんどのように感じた（我々しかり登山業界や山小屋側の周知が足りないともいえる）。
- キジうちについて、生理現象なので仕方ないが、「キジうちの正しいやり方！」みたいなものを考案して、広報するなどの方法もあっても良いかもと思った。それらしいスポットに目を向けると簡単に跡が見つかり、案外いっぱいあるのだと実感。
- 山小屋へ携帯トイレの販売をお願いしたり、携帯トイレを扱っているメーカーなどの協力を得るようなことが出来ると、キジうちの数を減らせるのではないかな。
- 登山者往来の多い地域の登山道は崩壊とダメージが顕著であると感じた。
- 開けた場所だと、登山道外に外れることについての問題意識が弱くなる傾向があると感じた。植物を踏み荒らすような登山者は見かけなかったものの、植物が少なく砂礫や石だけが点在する広めの道では、普通に置き石をするだけではあまり効果が無さそうなので、ロープを張ったりもう少し派手目に石に×マークをつけるなどしたかったが、景観を損ねることにもつながるので、そのバランスを取るのが難しかった。
- 沢登りをする人は沢から登山道へとりつく際に、高山植物帯の上を歩いてくるので、それはどう対応すれば良いか正直迷った。
- 野営禁止の看板を幾つか立てたほうが良いのではないかな。北ノ俣岳～赤木岳付近ではテントをこっそり張るのに適した感じの場所が多数見受けられたが、野営をする人々は早朝には撤収と思うので、パトロールで取り締まることはなかなか難しいと思える。
- 過去のグリーンパトロールの報告書の冊子（「峰々を歩きて」）を読みました。10数年前の活動の感想や意見が今の自分と思うところが、あまり変わってないんだなぁと思った。

● 改善を要すると思ったこと

- 日程について、以前のような1地区2班以上の体制に戻ればまた違った活動ができるかなと思う。今回は短期間で広範囲を回る行程だったので、作業内容の充実度が低くなってしまった。
- 活動時期は、稜線班に関しては7月中旬からお盆前までぐらいが良いのでは？と感じた。花の時期や春の残雪状況を見極めて柔軟な日程設定ができれば良いと思う。
- 支給品のマジックペンの太さや色、トンクの長さ、ジップロックの量、地図が最新のものか、ライチョウ調査のための双眼鏡など。
- 配布される地図や手引きや図鑑の大きさがいまいち分からず、どのサイズのポーチを準備するか迷った。ゴミ袋や回収した排泄物をザック外に掛けておくためのカラナビをもっと準備しておけばよかったので、事前案内の持ち物リストに追加もしくは補足で説明があると有難い。
- 外来植物については、登山研修所の敷地内で事前に、オオバコやタンポポの現物にて除草作業の研修をするべき。最初の講習は短時間でも有効。過去のグリーンパトロールの実績から、小屋周りの外来植物の状況はほぼ把握できていると思う。外来植物除去を明確な目的とした日程を組んで（事前に小屋側にもその旨を伝達して）も良いのではないかと思う。最低でも2日は必要。

● パトロールを終えての感想

- 初めてのGパト参加ということでDさんに色々教えていただきながら何とか最終日まで迎えることができました。

パトロール員として歩くなかで、登山道の状況やゴミ、登山者の装備や植物にも目を向けたりと普段の山歩きとは全く別の視点が必要になったのが新鮮だったのと同時に、今振り返ると、これまで全然気に留めなかったこの部分こそ、一般の登山者にも知ってもらいたい部分だったなと感じました。

パトロールの中で登山者とお話する場面はいくつもありましたが、悪質な方はほとんど見当たりませんでした。ただ置き石をしたそばから中に入って写真を撮る方もいましたし、その行為が良くないとは分かりつつも少しだけ一瞬だけという行為も見かけました。こうした少しの部分は簡単に見えてなかなか意識づけするのは難しい部分だと思いますが、ここを変えない限りは登山道周辺の環境を守れないと感じました。

パトロールを終えて2週間ほど経過しましたが、その後の登山では高山植物の種類や登山道の状況などにも身が向くようになり、今回の経験が確実に自分のなかで生きてるなど感じております。このような機会を与えてくださりありがとうございました。

最後に、森林事務所の方々は台風や体調不良での日程変更に伴う諸々の調整など各方面でのサポートもありがとうございました。まだ来年は分かりませんが、もし参加出来るようであればご連絡させていただきますので、その際はぜひよろしくお願いします。

➤ 今回も森林管理署の皆様をはじめ、各山小屋スタッフの皆様には大変お世話になりました。この場をお借りして心からお礼申し上げます。スタート直後から体調不良に悩まされてしまいましたが、無事に日程を完遂することができてホッとしております。

今回で3回目のグリーンパトロール。パートナーのSくんは昨年、Y小屋で働いていた経験とその流れで山岳警備隊や常駐隊の方と、薬師雲の平方面のへ巡回に帯同した経験があり、山小屋関係者

への面識が豊かで非常に心強かったです！またSくんは、物腰柔らかく素直な青年でしたのでパートナーとしてストレスを感じることなく共同生活ができました。

景色や人々との交流はそれは素晴らしいものでしたが、登山道や登山道付近の植生の傷み、山小屋のトイレ問題(処理能力を超えて溢れてしまっていたり、単に垂れ流しだったり)、今はまだなんとかなっているかもしれませんが、国や地方行政をも巻き込んで早急に対策が必要ではないかと強く感じました。

グリーンパトロールの活動がわずかでもその一助となれば幸いです。今回も貴重な体験をさせていただきました。

【黒部地区】

活動期間：令和5年8月3日 ～ 令和5年8月22日

区域

針ノ木岳 ～ 爺ヶ岳 ～ 五竜岳 ～ 唐松岳 ～ 不帰ノ嶮 ～ 樺平



美化活動



置き石による道しるべ

口頭注意件数

行為別	高山植物 採取	ロープ内 立入り	指定地外 キャンプ	ストックキャ ップ未装着	排泄の ゴミ	その他	計
件数	0	2	0	31	24	3	60
人数	0	7	0	35	24	3	69

※その他：ザックがグリーンロープを越えた場所にデポされていた

令和4年度 件数	0	5	0	12	3	1	21
-------------	---	---	---	----	---	---	----

ライチョウ目撃数（羽）

	オス	メス	ヒナ	計
令和5年度	4	8	13	25
令和4年度	0	3	6	9

パトロール員からのコメント

● 巡視上感じたこと

- 例年よりパトロールが遅い始まりで、外来植物も花が終わっており判別できなかった（例えばタンポポ、毛が飛んだあとで枯れつつあり萼が中途半端に反っているもの）。
- グリーンロープ張りを一度もすることなく終わった。
- ゴミ拾いをしていて、新しいゴミは少ないが古いゴミが多かった。50年というグリーンパトロールの活動があることで、ゴミを捨てる人も減っていると思った。
- スtockキャップについて、少しずつ使用が定着してきているように感じた。不使用者に声掛けすると「持っているので着けます」といって装着してくれる人が増えた印象。
- 排泄ゴミでティッシュが多くみられた。呼びかけ看板を用意しても良いと思った。
- 来年も同じ時期に巡視するなら、ハンマーは一度も使わなかったので不要だと思う（必要なら近くにある石を利用すれば済む）。
- 「高山植物保護のため歩道外は立入禁止です」等の看板の文字面が風雪で削れたり、支柱が折れたりしており、交換が必要だと思う。
- 白馬山荘～祖母谷温泉のうち白馬岳に近い標高の高い場所はプラスチック製の札で「←白馬 祖母谷→」という看板がここまで要らないのではないかと思うほど、数十メートル毎に置いてある。一方で祖母谷温泉に近い標高の低い側にはほぼない。祖母谷温泉で伺ったところ、遅い時間に下りてくる人の中には間違えて沢を下ってしまい余計に時間がかかってしまうとのこと。こういったプラ製の看板の設置者が誰かはわからないが、迷いやすい沢付近に置いておくことで道迷い遭難を防げるのではないかと。
- 狭い登山道ですれ違いがある時、植物を見もせず上に乗って回避する人が何人かおられた。安全上注意しづらかった。
- 小屋まわりをはじめ、登山道を歩き、外来植物が在来の高山植物のスペースを奪っている状況を改めて目視できた。

● 改善を要と思ったこと

- 高度順応、高山植物の学習、パトロール員としての基本の学習を兼ねて、最初の小屋は2泊できると助かる（特に稜線班未経験者と歩く場合）。交通の要衝となる山小屋にも少なくとも2泊必要。すぐ移動だと今までのように各方向を巡視できない（特に五竜、唐松、針ノ木）。
- 期間30日、日給アップをお願いしたい。物価高騰で山道具の価格や登山靴のリソール代金も上昇している。期間20日、日給7,500円では全くのボランティアになってしまう。特に薬師や黒部班は登山靴の摩耗が激しく、新品を持ってくるもほぼ削れてしまいリソールが必要になる。

- 他班と情報交換ができるように山小屋滞在日が重なるようにして欲しい（黒部班でいえば朝日班と白馬山荘で同日滞在）。
- 各班のパトロールの重要点を書いた書類があれば良いと思う（引継ぎ事項のようなもの）。山小屋さんからは毎年同じことを言われるのに、パトロール員は毎年変わる。書類を読んで知っていれば、経験者がいなくても経験者が行うのと同じことができる。
- 外来植物について見分け方が載った冊子があると良い。特に小さいうちのものを高山植物と見分けられると良い。
- 外来植物の分布について、巡視員ノートの後ろに各小屋・テント場の上図面を入れて、記入してはどうか。現状把握と翌年のパトロールの確認にも使用できる。長期的にデータをとれば、外来種の増減も明らかになる。
- 10Lのゴミ袋は、20Lのものと同じ厚さに変更して欲しい。破れやすく、古缶、割れビンですぐ穴が開いてしまい困った。
- 看板の文字を塗り直す際に、ペンだと凹凸に対応できなかったため、塗料や筆系のものにしてもよい。

● パトロールを終えての感想

- まずはじめに、風邪をひいてしまったことで署の皆様並びに山小屋の皆様、同じ班のHさんにご心配・ご迷惑をおかけしたこと、大変申し訳ございませんでした。のど飴やマスクをキレット小屋まで担ぎ上げて下さった宇奈月森林官、立山森林官とMさん、本当にありがとうございました。皆様のサポートによりこうして無事にパトロールを終えることができてうれしく思います。

苦楽を共にして峰々を歩き回ったHさん、最後まで本当にありがとう。今年は駆け足で、例年ならするグリーンロープ張りもなく多くを教えることはできませんでしたが、黒部班の山域に対する理解は深まったのではないのでしょうか。来年以降もまた参加して欲しいと思います。

- 初めての稜線のパトロールをして感じたことは、ゴミが少ない。捨てているゴミというよりも落ちてしまったゴミというのが多かった。パトロール中にすれ違う登山者さんからも感謝の言葉や「落ちていたら自分もできるだけ拾います」という声もあり、毎年パトロール員が稜線にすることが大切で登山者さんの意識を高めることにつながっていると感じました。この仕事は人の命を助けるなど決して大きな仕事ではなくても、ゴミを拾い、外来植物から在来植物を保護することで高山帯に住む動物たちの暮らし（生態系リズム）を守る大きな仕事だと思いました。なくなっちゃいけない仕事、今後もずっと続けて欲しいと思います。

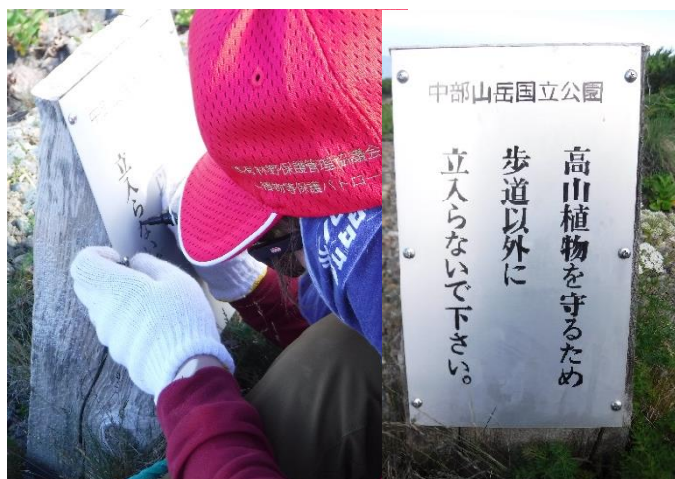
今回のパトロールの経験を生かして登山する際はゴミ、外来植物に目を向けて歩いてみようと思います。日頃山に登らせてもらい楽しませてもらっているのも、このようなパトロールで少しでも山が綺麗になってくれたらと思います。いい経験ができました。ありがとうございました。

【白馬・朝日・北又地区】

活動期間：令和5年8月3日 ～ 令和5年8月22日

区域

朝日岳 ～ 夕日ヶ原 ～ 雪倉岳 ～ 白馬岳周辺



注意看板の補修



グリーンロープ用の杭打ち

口頭注意件数

行為別	高山植物 採取	ロープ内 立入り	指定地外 キャンプ	ストックキャ ップ未装着	排泄の ゴミ	その他	計
件数	0	2	0	63	6	0	71
人数	0	3	0	75	6	0	84

令和元年度 件数	0	0	0	8	2	2	12
-------------	---	---	---	---	---	---	----

ライチョウ目撃数（羽）

	オス	メス	ヒナ	計
令和5年度	2	12	28	42
令和元年度	8	27	60	95

※令和2～4年度：パトロール中止

※令和元年度：2班4名で1ヶ月間活動

パトロール員からのコメント

● 巡視上感じたこと

- 4年ぶりの活動ということもあり、看板の文字が消えて読むのが困難なものが多かった。
- 白馬岳稜線と雪倉、朝日方面との登山客数の差、質の違いが鮮明で興味深かった。
- 歩きながら耳にイヤホンをしていて、声をかけても無視されることもあった。
- 白馬周辺は登山客が多く、ストックキャップを落としてしまった方やそもそもしていなかった人も多かった。
- スtockキャップ未装着への声かけは、見つけ次第、丁寧に伝えるように心掛けた。ほとんどの人が足を止め、こちらの意図を伝えると理解していただけた。いつの間にか取れている事例が多かったが、中には大雪溪のため外して、着け直すのを忘れていて、声かけに感謝されることもあった。
- トレラン系のストックキャップは、「着けてます」と返されることもあり、着けているかわかりにくいものがあった。
- 白馬岳周辺は外国人の登山客が多く、看板の表記に英語や中国語・韓国語の表記が必要。登山道が明確なためグリーンロープ内の立入はなかったが、ストックキャップを装着する意味づけのためにも、外国人の方への配慮があるといいかと思う。
- 山の日の白馬岳山頂で、大勢の人がロープを超えて日の出を観ていた。岩場に座ったり、足元の植物を踏んだりしている人もいた。声をかければよかったのか、いや、ロープ内に入らないように伝えても私たちGパトが通過したら、また戻るだろう…何もできない自分にモヤモヤしながらしばらく歩くことになった。一登山者としての心理（少しぐらいならいいだろう）が多数集まり、「少し」ではない状況を発生させる。山頂付近は植生へのダメージが大きく、回復は容易でないことがわかった。
- 登山道とその周辺にはイネ科の草が多く生えていて、下から持ち込まれていると考えられ、白馬エリアの貴重な高山植物に影響を与えると感じた。
- 看板について、高山植物についての注意喚起や、ルートファインディングが必要な山であることを伝える文言に変えたほうが良いのではと思った。旭岳には一般登山道がないにも関わらず、登る人が多く見られた（SNSでも多数書き込み有）。入林許可がいることを知らせる看板はあるが、あまり効力がないようだった。踏み跡が一部不明瞭なので、植物を踏みながら歩いているのだと想像がつく。
- 登山道に落ちているゴミは、飴の袋の切れ端や魚肉ソーセージの赤いテープなどが多かった。草むらに引っかかっていたり、石と石の間の隙間に入り込んでいたりしているので、トングの取り回しが上手くなった。大きなゴミは手袋やタオル、折れたストックなどで、タバコの吸い殻は思ったほど多くはなかったが、灰の塊が捨ててあり回収が難しかった。
- 従事する期間が長くなるにつれ、ティッシュを見つけると、気分が重くなっていった。白いままなのか、茶色く変色しているのかで対応が変わるからだ。

● 改善を要すると思ったこと

- 排泄物用の黒いビニール袋が欲しい。透明や白だと内容物が見え、心理的負担が大きい。排泄物を回収し、長時間ザックに付けて歩くことを考えると、「見えない」工夫をした方が良い。
- キャップが汗で臭くなるので、水で洗える速乾性のものが欲しかった。
- 木の看板の塗り直しについて、ボトル入りのインクと筆があればもう少し書きやすい。マジックのインクが木に染みてうすくなり、何度も重ね塗りをしなければならない。フェルトのペン先は崩れてしまい書き難くなった。
- 要項に20日間に耐えられる靴、履きなれた靴とあり、岩稜帯も通るので固めの靴で従事したが、ソールが固いのはミスマッチだった。看板の文字を書き直す作業が多く、屈んでばかりだったので、登山靴はソールが柔らかいものの方がいいと思った。また、登山道の状況にもよるが、朝日班は岩稜帯が一部しかないので、ミドルカットのハイキングシューズぐらいが調度良いと思った。
- 雑草除去用の小型ピックまたは鋏が欲しい。
- ムヒだけでなく虫よけもあるとうれしい。
- 朝日～白馬の2往復だけでなく、白馬から祖母谷に下りるルートでも良いと思いました（朝日岳周辺は人も少ないので、予算や日程的にも）。

● パトロールを終えての感想

- 朝日班は2人ともはじめてだったので、宇奈月森林官からのレクチャー（入山初日、2日目半日）が大変参考になった。グリーンロープの設置の仕方、看板修復の方法などどの程度の作業をすれば良いか具体的に教えていただいたので、その後の活動の方針となった。とにかく、安全に、無理なく怪我無く仕事をするようにとお話いただいたので、無事に乗り切ることにつながったと思う。

今回Gパトに従事していて、すれ違う年配の女性登山客の方から「パトロール復活したのですね。また会えてうれしいです」と言われて、Gパトが一部の人にでも、しっかりと認知されていることに驚いた。と、同時に50年近く続くGパトに自分も関わることができて嬉しいと感じるひとときだった。他にも、「ご苦労様、ありがとう」という声を多くかけられた。一登山者としての私にとって、山は余暇に楽しんで歩くものだった。自分が8年ほど前に雲ノ平でGパトに会ったときも「ありがとうございます」と伝えていたが、自分が実際に言われる立場になって、やって良かった、頑張ろうと励みになる言葉だと実感できた。

今回、仕事として山に入ることができ、自分の中での山に対する視点が大きく変わった。森林管理署の皆さんをはじめ、山小屋、警備隊、遭対協などの山で働く人々がいるからこそ、登山者の安全が守られるのはもちろん、登山道の修復が自然を守り、登山者の侵入を防ぐことにも繋がっていることがよくわかった。ここで気づいたこと、学んだことを今後の自分の山での活動に活かしていきたいと強く感じた20日間だった。本当にありがとうございました。

- 今回のパトロールでは、高山植物が豊かで美しい朝日、白馬岳中心を担当しました。以前はそれほど知らなかった植物の名前もこの期間を通して多く覚えることができました。朝日・白馬岳エリアは本当に多く花が咲いていて美しかったです。ストックキャップ未装着者や下から持ち込まれたであろう草も多く、高山植物の保護や維持に危機感を抱くようになりました。パトロール中には一人で

も多くの方に高山植物の保護という意識を持ってもらえるように丁寧に協力をお願いするように心がけました。

また、ゴミの問題も深刻なように感じました。なぜなら、拾ったゴミの多くは飴やタブレットの個装袋のゴミが多く、小さくて目に入らないだけでなく、分解されずに残されるゴミだったからです。4年ぶりのパトロールとのことでしたが、登山道に残っているゴミは4年分とは思いませんでした。きっと風や雪解けによって谷に落ちていったのだと思います。それが繰り返されると高山植物も美しい景観も失われると思います。そうならない為にも、地道にパトロールを継続していくことが必要だと感じました。

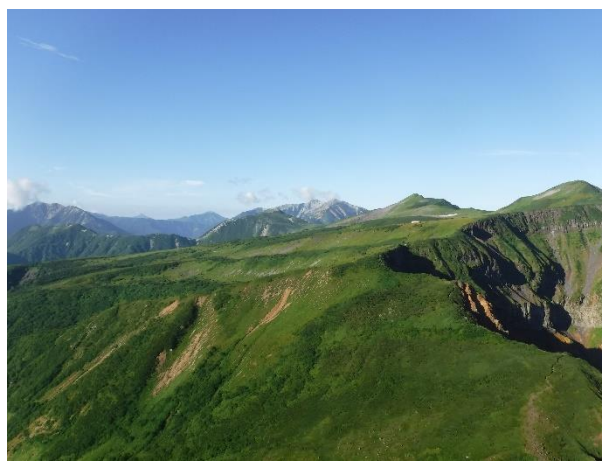
今回のパトロールは20日間だけでしたが、これまで50回続けられてきたパトロールに参加し、地元の山域を美しく保つ為に働くことができて良かったです。この活動を通して自分自身の登山に対する意識や自然保護に対する意識を改めることができました。来年度から自然保護に関わる職場で働き始める予定ですが、今回の経験を生かして日本の美しくて豊かな自然の保護に貢献していきたいです。

編集後記

7月19日の室堂班の結団式から始まった今年の高山植物等保護パトロールは、8月22日の稜線班の解団式をもって全日程を終了しました。今年度は4年ぶりに4地区13名での活動となり、広域でのパトロール活動を行うことができました。

稜線班につきましては、今年から期間を短縮したことにより、3地区をご担当された方々は慌ただしいスケジュールを過ごされたと思います。今回の活動を通して出された貴重な意見・提案等は、反省点も踏まえまして、来年度以降のパトロール活動に反映させてまいります。

最後に、新型コロナウイルス感染症の影響が収まりきらない中でも高山植物等保護パトロールにご協力いただきました国有林野保護管理協議会関係者、山小屋等宿泊施設関係者並びに運輸事業者等の皆様に感謝を申し上げますと共に、今後ともご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



高山植物等保護パトロール事務局
富山森林管理署 森林ふれあい担当